



KIMURATAN

株式会社キムラタン

2023年3月期 第2四半期

---

# 決算説明資料

2022. 11. 9

# 2023年3月期 第2四半期 連結決算の概要

# エグゼクティブ・サマリー

## 2023年3月期 2Q実績

- 売上高  
**2,245百万円** (+22.8%)
- 営業利益  
**△535百万円** (△241百万円)
- 四半期純利益  
**△793百万円** (△492百万円)

## 2023年3月期 2Q概況

- **全社売上高22.8%増収**  
不動産拡大と店舗販売の伸長
- **粗利益率△13.9ポイント**  
在庫消化のため粗利率低下
- **一時費用等 372百万円計上**  
M&A関連、借入手数料等  
一時的・暫定費用を計上
- **構造改革は進捗**  
店舗閉鎖・本社スリム化、  
在庫消化等を推進

## 2023年3月期 業績予想

- 売上高  
**4,000百万円** (△5.6%)
- 営業利益  
**△300百万円** (+264百万円)
- 当期純利益  
**△630百万円** (+263百万円)

## 連結経営成績

- 売上高は不動産事業拡大に加え、店舗販売が伸長したことにより22.8%の増収
- 在庫完全消化を目指した値引率の拡大とM&A関連一時費用の計上により営業赤字拡大

(百万円)

	2022年3月期2Q		2023年3月期2Q		増減額	増減率
	実績	売上比	実績	売上比		
売上高	1,828	100.0%	2,245	100.0%	+417	+22.8%
売上総利益	862	47.2%	748	33.3%	△114	△13.2%
販管費	1,157	63.3%	1,284	57.2%	+127	+11.0%
営業利益	△294	△16.1%	△535	△23.9%	△241	-
経常利益	△293	△16.1%	△787	△35.1%	△494	-
四半期純利益	△300	△16.5%	△793	△35.3%	△492	-

## セグメント別売上高

- アパレルでは店舗売上が堅調に推移・閉店セール売上は倍増し卸販売も増収した
- 不動産事業は安定的に収益を確保。ウェアラブル導入園も増加

(百万円)

	2022年3月期2Q		2023年3月期2Q		増減額	増減率
	実績	構成比	実績	構成比		
全社	1,828	100.0%	2,245	100.0%	+417	+22.8%
アパレル事業	1,746	95.5%	1,800	80.1%	+53	+3.1%
不動産事業	32	1.8%	401	17.9%	+368	12倍
その他事業	49	2.7%	44	2.0%	△5	△10.5%

## セグメント別売上総利益

- アパレル在庫の完全消化を図るべく大幅値引により利益率は13.9ポイント低下
- 在庫消化は計画を超えるペースで進捗。完全消化を図り将来の利益改善につなげる

(百万円)

	2022年3月期2Q		2023年3月期2Q		増減額	増減率
	実績	売上比	実績	売上比		
全社	862	47.2%	748	33.3%	△114	△13.2%
アパレル事業	844	48.3%	557	31.0%	△286	△33.9%
不動産事業	20	61.3%	185	46.2%	+165	9倍
その他事業	△1	△2.7%	5	12.6%	+6	—

## 販売費・一般管理費

- 店舗閉鎖や本社スリム化によりアパレル事業では141百万円削減
- M&A 関連費用及びのれん償却費（暫定処理）196百万円の純増により全社ベースで増加

(百万円)

	2022年3月期2Q		2023年3月期2Q		増減額	増減率
	実績	売上比	実績	売上比		
全社	1,157	63.3%	1,284	57.2%	+127	+11.0%
アパレル事業	1,126	64.5%	984	54.7%	△141	△12.6%
不動産事業	2	7.2%	61	15.2%	+58	—
その他事業	28	57.3%	41	94.9%	+13	+48.4%
小計	1,157	63.3%	1,087	48.4%	△69	△6.0%
調整額	—	—	196	8.8%	+196	—

売上比はセグメントごとの売上に対する比率を記載しております。

## 営業外損益・特別損益

- シンジケートローン手数料や為替差損の影響により営業外損益252百万円悪化
- 借換えによる将来の財務費用負担減により手数料は数年で回収の見込み

(百万円)

	2022年3月期 2Q	2023年3月期 2Q	前期比	増減要因等
営業利益	△294	△535	△241	
営業外収益	16	28	+12	不動産事業の受取保険金16百万円が主な増加要因
営業外費用	15	280	+264	支払利息+59百万円、シンジケートローン手数料等+146百万円、 為替差損+37百万円
経常利益	△293	△787	△494	営業損失拡大に加え営業外損益△252百万円の影響
特別利益	5	—	△5	前期は新株予約権戻入益を計上
特別損失	10	0	△10	前期は物流移転費用等を計上
法人税等	1	5	+3	—
当期純利益	△300	△793	△492	

## セグメント別概況

- 値引販売増加によりアパレル事業赤字は拡大するが固定費削減等の構造改革は進捗
- 不動産事業は安定収益確保。コスト削減にも取り組み利益拡大を目指す

(百万円)

	2022年3月期 2Q	2023年3月期 2Q	前期比	増減要因等
アパレル事業	売上高	1,746	+53	店舗販売は閉店セール含め伸張。ECは減少 卸販売は堅調に推移
	セグメント損益	△282	△144	在庫完全消化のための値引き増により赤字幅は拡大するが固定費削減等構造改革は進捗
不動産事業	売上高	32	+368	安定的に収益を計上。大型物件の稼働率向上
	セグメント損益	17	+106	コスト削減にも取り組み利益拡大を目指す
その他事業	売上高	49	△5	保育園事業の充足率は向上 ウェアラブル導入園も増加
	セグメント損益	△29	△6	粗利率は改善。本部費配賦額が増加
小計	売上高	1,828	+417	-
	セグメント損益	△294	△45	-
全社	売上高	1,828	+417	-
	セグメント損益	△294	△241	M&A関連費用、のれん償却196百万円を計上

## 連結財政状態

- 総資産は前期末と比べ6,125百万円増加。不動産M&Aが主要因
- 有形固定資産5,687百万円、のれん1,318百万円、借入金5,885百万円増加

(百万円)

	2022年3月期 2Q	2023年3月期 2Q	前期比	増減要因等
総資産	2,587	8,712	+6,125	
流動資産	2,462	1,618	△843	現金・預金、売上債権、商品・製品在庫の減少による
現金・預金	605	221	△383	連結キャッシュ・フロー計算書参照
売上債権	523	407	△116	店舗数が漸減したことと季節要因による
商品・製品	1,217	829	△387	在庫完全消化に向けて販売強化を図った結果による
固定資産	125	7,093	+6,968	M&Aによるキムラタンエステートの子会社化により増加
負債	2,467	8,444	+5,977	M&Aによる借入金の増加が主要因
買掛金	364	388	+23	当社買掛金は減少。卸向け買掛金の増加により横ばい
借入金	1,494	7,380	+5,885	短期△295百万円。1年内含長期+6,180百万円
純資産	119	267	+147	親会社株式に帰属する四半期純損失による
自己資本比率	3.8%	2.9%	-	-

## 連結キャッシュ・フロー計算書

- 赤字幅は488百万円拡大するが、利息・法人税等支払前の営業C/Fは101百万円の改善
- 子会社株式取得に係る支出と借入による調達が大きく増加

(百万円)

	2022年3月期 2Q	2023年3月期 2Q	前期比	増減要因等
営業C/F	△124	△202	△77	税金等調整前四半期純損失は488百万円の赤字拡大となるが、キャッシュ・フローのマイナス拡大は79百万円となる
減価償却費	18	96	+78	不動産M&Aにより大幅増加
売上債権の増減	143	116	△27	-
棚卸資産の増減	△0	389	389	閉店セールでの販売を強化し在庫徹底消化を図った
仕入債務の増減	23	23	△0	-
投資C/F	△106	△1,386	△1,279	主として子会社株式取得に係る支出と一部物件売却による収入
財務C/F	△65	1,267	1,333	主に借入金の純増と新株予約権行使による収入
現金・同等物期末残高	73	148	+75	

## 2023年3月期通期業績予想

- 営業損益 3 億円の赤字予想となるが持越し在庫の徹底消化を図る
- 為替差損、M & A 関連・借入手数料等の一時費用等の負担により630百万円の赤字見込み

(百万円)

	2022年3月期		2023年3月期		増減額	増減率
	実績	売上比	実績	売上比		
売上高	4,237	100.0%	4,000	100.0%	△237	△5.6%
営業利益	△564	△13.3%	△300	△7.5%	+264	-
経常利益	△609	△14.4%	△620	△15.5%	△11	-
当期純利益	△893	△21.1%	△630	△15.8%	+263	-

## 将来情報についての注意事項

---

本資料における当社および当社グループの今後の計画、見通し、戦略等の将来情報に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報から合理的であると判断する一定の前提のもとづいており、実際の業績等の結果は、想定と大きく異なる可能性があります。

これら将来情報に関する記述には、多様なリスクや不確実性が内在しております。